

平成25年度

身 号

THE 市町支援通信

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

あすなろ学園市町支援課は、
途切れのない支援システムの構築を推進しています。

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）・機能の設置
- ② 市町の保健・福祉・教育行政と共働した保育所・幼稚園での早期発見・支援
発達チェック（CLM）と個別の指導計画の普及定着 市町の療育システムの構築
- ③ みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援

～三重県知事からのメッセージ～



皆様には、日頃から子ども施策の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

あすなろ学園が市町支援事業を実施して7年目をむかえます。「どうすれば子どもたちやご家族が、より早く、より身近なところで、専門的な支援を受けることができるだろうか」という切実な思いから生まれたのが「あすなろ方式」と呼ばれるシステムです。市町に保健・福祉・教育を一元化した窓口をつくるため、市町の方々に、あすなろ学園の現場に来ていただき、1年間学園の職員と共に働く中で様々なノウハウを学んでいただいています。こうした取組の成果として、この4月には、ワンストップ窓口機能を18市町に創設していただきました。

現在、あすなろ学園と草の実リハビリテーションセンターを統合し、子どもの発達支援の拠点として「こども心身発達医療センター（仮称）」の整備を進めています。新センターでは、これまでのノウハウを生かし、三重県の、そして全国における当該分野のセンター的な機能を果たせるよう、取り組んでいきたいと考えています。

子どもたちや、子育て家庭を支える皆様が、日々夢や希望に向かって、努力し、幸福を実感しながら生きていけるような三重をめざして、三重県全体で取り組んでまいりたいと思います。

平成25年6月

三重県知事 鈴木 英 敬

はじめまして、東員町 発達支援室 です！

今年度から東員町地域福祉課に新たに発達支援室を開設しました。室長をはじめ、室専任の保健師、そして、昨年度にあすなる学園で研修を終えた新米アドバイザー（保育士・教員）、計4人のスタッフで、こどもの発達支援業務を行っています。

CLM 巡回研修では、「CLM 推進委員会」を立ち上げ、幼稚園保育園・小中学校に CLM 担当者を置き、東員町の全ての園で CLM と個別の指導計画作成をスタートさせました。保健・福祉・教育の担当者、保育者、小中学校の CLM 担当者（主に特別支援コーディネーター）で、アセスメント・検討をし、幼稚園保育園から小中学校への途切れのない支援につながる第一歩が踏み出せています。CLM 担当者のスキルアップのために、中学校での事例をもとに、小学校や幼稚園保育園では、どのような支援が必要だったのかという「事例のさかのぼり研修」も夏に行う予定です。

また、発達支援室が母子保健の1歳6か月児健診・3歳児健診に参加し、集団健診を取り入れていけるよう、計画も立てているところです。

「希望と情熱をもって！」、「現状維持は後退と同じ。常に前進を！（中村みゆきさんからいただいた言葉）」をモットーに、今後もあすなる学園さんからのアドバイスをいただきながら、我が町の発達支援室を充実させていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします！！



東員町長のエール

東員町の子育て支援がより充実できるように、発達支援室の一つひとつの事業を明確にし、家庭や学校での子育ての応援を精一杯していきましょう！

東員町16年一貫教育プラン（マイナス1歳～15歳）とタイアップし、子どもたちの「基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感」を高めていきましょう！

教育長のエール



総合的な家庭支援を目指して ～鈴鹿市 子ども家庭支援室～

これまで、鈴鹿市は「児童相談」は子ども家庭支援室が、「教育相談」は教育委員会の教育研究所が担当してきました。しかし、相談件数の増加とともに、相談内容が複雑化しており、お子さんの支援をしていくには、お子さんだけに着目するのではなく、その家庭を総合的にとらえて支援をしていく必要性が高まってきました。

このようなことから、本年4月1日より、子どもに関する相談窓口を子ども家庭支援室に一元化する体制を整えました。室には室長1名、臨床心理士2名、保健師1名、保育士2名、教員4名、家庭児童相談員1名、婦人相談員1名、教育相談員1名、養育支援訪問員2名、事務職員2名の計15名が配置され、それぞれ職種の専門性を生かして相談を受けています。相談員同士が協働し、各々の専門性を生かした総合的な家庭支援ができるのが鈴鹿市の子ども家庭支援室の強みです。

例えば、小学校のお子さんで育てにくさがあり、家庭だけの養育では対応が難しい場合、お子さんの学校での支援の助言をすることはもちろん、福祉のサービスへとつなぎ、保護者の子育てを支援することもあります。

また、今まで行われてきた支援を学年や在籍機関が変わっても途切れなく引き継いでいくということも大切にしています。

市民の皆さんに、子どものことで困った時は、子ども家庭支援室に相談したいと思っていただけるような、敷居の低い室をめざしていきたいと考えています。



保育所・幼稚園での具体的な支援

～「CLM と個別の指導計画」～



クラスの姿

・Aくんのように登園の支度が途切れてしまう子が4～5人いる。クラス全体が騒がしい。

担任：どうしてだろう??

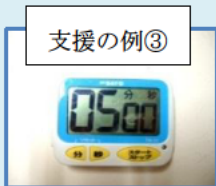
どうするとできるようになるのかな??

名前：Aくん（5歳児）							
絞りこまれたチェック項目 (1) 登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい エピソード： 登園の支度（コップを出す、タオルをかける、シールを貼る、カバンをロッカーに入れる）の時、声をかけないとぼんやりしている		要因や気持ち ・気が散ってしまう ・手順がわからない					
目標：登園の支度が5分以内になれる							
期間	具体的な指導方法		結果・評価				
5/20 ～ 5/31 (2週間) 10回	<クラス環境の整えとクラス全体の支援> ・登園の支度が1か所のできるようにする。 (支援の例①) ・遊んでいる友だちが視界に入らないように、配置する。 ・支度の手順を表で示す。(支援の例②) ・タイマーを使って、5分以内に支度することをクラスの約束とする。(支援の例③) ・5分以内にできたら、シールを貼る。 (支援の例④)	<個別の支援> ・気が散ってしまいそうな時は、担任が、「次は何だったかな?」と手順表を示しながら、声をかける。 ・個別の手順カードを作成する。 (支援の例⑤) ・個別にもほめる。 ・5分以内にできたら、担任と一緒に好きなあそびをして遊ぶ。	5/20	○	5分のできた		
			5/21	○	5分のできた		
			5/22	○	4分のできた		
			5/23	○	4分のできた		
			5/24	○	4分のできた		
			5/27	○	3分のできた		
			5/28	○	3分のできた		
			5/29	○	3分のできた		
			5/30	○	3分のできた		
			5/31	○	3分のできた		
						評価日 5月31日(金) 16:00～	

支援のあれこれ ～具体的なアイテムを紹介します～



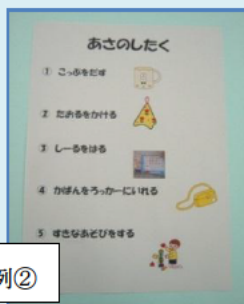
支援の例①



支援の例③



支援の例④



支援の例②



支援の例⑤

- ・Aくんと同じように登園の支度が途切れてしまうBくんも5分のできるようになった。
- ・時間を意識できる子が増えた。
- ・クラスの他の子どもたちにも効果があった。



速報！！

総勢 221 名にご参加いただきました！！

6月10日（月）津市芸濃総合庁舎、12日（水）朝日町保健福祉センター、14日（金）玉城町健康福祉会館にて『ザ・夏 途切れのない発達支援研修会（圏域別ワークショップ）』を開催しました。

会場を提供していただいた市町行政の皆様、ご協力いただいたアドバイザーの皆様、ありがとうございました！！

アンケートにお寄せいただいたご意見・ご感想をいくつか紹介します

- ★ 気になる子は各学年にいたので、「やっかいな子」と思ってしまうことなく、担任と共に取り組んでいきたい。
(四日市市：幼稚園教諭)
- ★ 今年度から町でCLMに取り組むことになり、CLMは比較的システムチックで、具体的でわかりやすい側面があるのではないかと期待している。(東員町：教諭)
- ★ 早速、CLMを使って子どもの困っているところについて考え、支援の方法を探してみたい。(東員町：幼稚園教諭)
- ★ あれこれと欲張らず、シンプルに要点をつかんで立てていくということで、少し荷がおりました。(孤野町：保育士)
- ★ 現在1名しかいないアドバイザーにいろいろと助言、指導をいただき、現場は本当に助けてもらいありがたく思っている。さらにアドバイザーを増やしていくことに行政も協力的なので、仲間の中から熱意のある人を推して、支えていきたい。
(玉城町：保育士)
- ★ 小学校入学直後～低学年でCLMは十分使えそうです。(伊勢市：教諭)
- ★ まだCLMの研修を受けていない職員に受けてほしい。(津市：保育士)
- ★ 希望者だけでなく、全職員が参加し、園や子どもに返していくとよい内容だと思いました。日頃の子どもへのかかわり方を見直し、考え直す、よい機会になりました。(津市：幼稚園教諭)

インフォメーション ザ・夏 途切れのない発達支援研修会 part2

講演会「幼児期から小学校・中学校教育を見通した途切れのない支援」

<日時・場所>

平成25年8月27日（火）14:30～16:30（14:00～受付）三重県総合文化センター中ホール

<内容> 「幼児期から小学校・中学校教育を見通した途切れのない支援」

講師 三重県立小児心療センターあすなる学園 中村 みゆき

<対象> 保健・福祉・教育等の子どもに関わる方

<申し込み> 市町名、所属、職名、名前、電話番号を明記の上、

FAX:059-234-9361（あすなる学園市町支援課）まで、お申込みください。

締切：8月16日（金）



2013年6月21日

<発行> 三重県立小児心療センター あすなる学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援課
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL: 059-234-8700 FAX: 059-234-9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/